

淡路島内の永田青嵐の句碑・歌碑

① 傀儡師
波の淡路の
訛かな
場所：洲本市海岸通
淡路文化史料館前



② すずしさや
僧に従ふ
朝の階
場所：洲本市上内膳
先山千光寺
山門下展望台



③ 春雨や
波の淡路の
五色浜
場所：洲本市五色町鳥飼浦
県道31号線沿い




④ なつかしき
水の細さよ
猫柳
場所：南あわじ市広田田
南あわじ市役所
旧緑庁舎前



⑤ 茄子汁
佛をおそれ
住みにけり
場所：南あわじ市倭文長田
永田青嵐生家




⑥ 震災忌
吾に古りゆく
月日かな
場所：南あわじ市倭文長田
観音寺墓地



⑦ 海晴れて
松風清き丘の上に
正しき者の
墓と呼ばれむ
場所：南あわじ市倭文長田
観音寺墓地



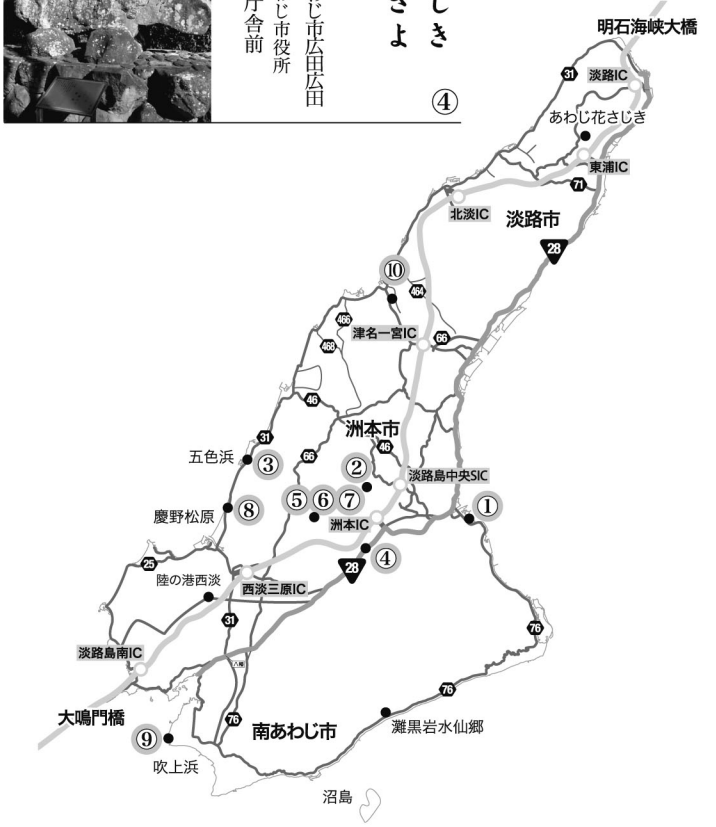
⑧ 波消えて
力なくとぶ
千鳥かな
場所：南あわじ市松崎慶野松原
国民宿舎
慶野松原荘前



⑨ 若布刈
いづれが近き
撫養福良
場所：南あわじ市阿万吹上
ホテルニューアワジ
プラザ淡路島前



⑩ 初詩いて
天地に事
なかりけり
場所：淡路市多賀
伊弉諾神宮外苑

淡路市野島墓浦(ひきのうら)

歸省子に
葉隠れ枇杷の
残りけり

青嵐



第十二回 永田青嵐顕彰 全国俳句大会 入選句集



◎募集期間
令和2年6月～9月

発行日：令和3年2月
発行：一般財団法人淡路島くとうみ協会
〒656-0022 兵庫県洲本市海岸通1-11-1
TEL:0799-24-2001 FAX:0799-25-2521
<http://www.kuniumi.or.jp/>

開催趣旨

永田青嵐顕彰全国俳句大会は、淡路島が生んだ偉人永田青嵐（本名・永田秀次郎）の功績を全国に発信し、俳句文化を通じたふるさと意識の高揚や、交流人口の増加による淡路島の活性化を図ることを目的として、平成二十二年度から実施しており、今回で十二回目になります。

また、大会では、「一般の部」に加え、「学生（小・中・高校生）の部」を設け、淡路島内の学校のみならず島外の学校からも投句を募集し、全国の子供達に永田青嵐を広く周知するとともに、俳句を通じて日本の風土や文化に触れる機会とし、心豊かな人づくりを目指しています。

そのほか、俳句の裾野を広げるため、初心者のための「俳句入門講座」や、島内の小・中・高等学校を対象に「俳句出前講座」、淡路島の観光地等を巡って俳句を詠む淡路島吟行バスツアーも実施しております。

永田青嵐

ながた せいらん

一八七六一一九四三

兵庫県三原郡（現、南あわじ市）生まれ。本名、秀次郎。一八九九年第三高等学校（現京都大学）法学部卒。旧兵庫県立洲本中学校長、三重県知事、貴族院議員、拓務大臣、拓殖大学長などを歴任。東京市長を二度務め、一九二三年の関東大震災からの復興、一九四〇年に開催予定だった幻の東京オリンピックの招致に尽力。

俳句は、三高在学中に寒川鼠骨の手ほどきを受け、後に高浜虚子に心酔。句は特別枠で随時俳誌「ホトトギス」に掲載された。代表句として「凧に追はるゝ如く任地去る」がある（永田青嵐句集、新樹社）。「震災忌吾に古りゆく月日かな」は辞世句。また、「交わりは薄くも濃くも月と雲」は、虚子の追悼句。他に「青嵐随筆集」（実業之日本社）等がある。



目次

開催趣旨、永田青嵐紹介	1
第十二回大会に寄せて	
・石村健大会会長挨拶	3
・永田秀一大会名誉会長挨拶	3
・稲畑汀子代表選者挨拶・賛同句	4
・兵庫県知事及び島内選者賛同句	5
稲畑汀子代表選	
・入賞作（一般の部）	6
・入賞作（学生の部）	7
・佳作（一般の部）	8
・佳作（学生の部）	9
島内選者選	
・入選作（一般の部）	10
・入選作（学生の部）	12
・準入選作（一般の部）	15
・準入選作（学生の部）	16
俳句出前講座・淡路島吟行バスツアー開催実績	17
後記	18
大会運営委員会委員	18
淡路島内の永田青嵐句碑・歌碑	

第十二回大会に寄せて

第十二回永田青嵐顕彰全国俳句大会会長
一般財団法人淡路島くうみ協会理事長 石村 健



淡路島が生んだ偉人『永田青嵐』の功績を広く全国に知っていただくとともに、俳句文化を通じてふるさとへの思いを高めていただくため、平成二十二年から開催しております本大会も、お陰をもちまして今年度で第十二回を迎えることになりました。

今回は、四十六都道府県及び台湾から、四千四百四十八人、七千五百九十四句の投句をいただき、昨年を引き続き二年連続で過去最多の投句数を更新するなど、本大会が全国的に認知される大会に成長しましたことに感無量の思いであるとともに、大会創設以来投句をいただいている全国の皆様や学校関係者の皆様、そして大会運営にご尽力いただいた先生方に対しまして、主催者を代表して心より感謝申し上げます。

今後、永田青嵐のふるさとである淡路島から、性別・年齢を問わず愛され、学ぶほどに奥深く、日本を代表する文化である俳句の素晴らしさを、島の魅力とともに、島内外へ発信し続ける所存ですので、引き続きご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本大会開催にご尽力いただきましたホトトギス名誉主宰の稲畑汀子先生、島内選者の方々をはじめ関係各位に心より御礼申し上げます。

第十二回永田青嵐顕彰全国俳句大会名誉会長

兵庫県議会議員 永田 秀一



開催出来すことを心より御礼申し上げます。

祖父永田秀次郎は、淡路島で生まれ、政界、俳界、教育界等多方面で活躍しましたが、特に俳界では、高浜虚子の指導を受け、「青嵐」の俳号で親しまれ、人情味豊かな俳句を多数残しています。淡路島を詠んだ句も多く、島内各地に句碑があります。その句碑を見る度に祖父の故郷を想う心が、句として後世に残っていくことの素晴らしさを感じております。

また、生家近くの小高い丘に墓があり、次の歌碑が建っています。

海晴れて松風清き丘の上に

正しき者の墓と呼ばれむ

とあり、自分は一生正しいことをしてきた人だったと言ってもらえるような人生を全うしたいと念願し、詠んだものです。本大会開催にご尽力いただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

第十二回永田青嵐顕彰全国俳句大会 代表選者

ホトトギス名誉主宰 稲畑 汀子



今年は大変な年になりました。今なお納まりそうもないコロナという病いにすべての行事が取り止めになって行くのです。その中でこの会が開催される

か分かりませんが、皆様の健康を祈りつつ期待を抱いてその日を待っています。

今年には今年の顔や野水仙

歳月は重し春めく日を待ちて

なつかしき島を訪ふ日も近き春



淡路文化史料館前に青嵐句碑と並ぶ稲畑汀子句碑

淡路島内での稲畑先生の句碑は、淡路文化史料館前(洲本市海岸通)、高田屋嘉兵衛公園(洲本市五色町)、国清禅寺(南あわじ市松帆)に建立されている。

海見えて風花光るものとなる

【経歴】

一九三二年、神奈川県横浜市生まれ。

父高浜年尾、母喜美の次女。小学生の頃から、祖父高浜虚子・父高浜年尾に俳句を学んだ。一九三五年、鎌倉から芦屋に転居。一九五六年、二四歳で稲畑順三と結婚、二男一女の母となる。

一九六五年、「ホトトギス」同人。一九七六年、第一句集『汀子句集』刊行。一九七七年、「ホトトギス」雑誌選者に。一九七九年、父高浜年尾の死去により主宰を継承した。一九八二年より朝日俳壇選者に、一九九四年～一九九六年、NHK俳壇の講師・選者となる。

一九八七年、日本伝統俳句協会を設立し、会長に就任。二〇〇〇年、虚子記念文学館を芦屋に開館、理事長に就任。二〇二三年、「ホトトギス」名誉主宰となる。

《兵庫県知事賛同句》

満月に青い海辺と白い波

兵庫県知事

井戸 敏三



《島内選者賛同句》

薄れゆく淡路訛や青嵐忌

たかた ひろ
高田 菲路

洲本市在住

「ホトトギス」同人

「九年母」推薦作家



菜の花や沖より晴るる播磨灘

まさい りょうとく
正井 良徳

南あわじ市在住

「淡路風土俳句会」代表



入賞作【一般の部】稲畑汀子選

《永田青嵐大賞》

爽やかや住処と決めし淡路島 兵庫県 久保 英美

《兵庫県知事賞》

国生みの島あますなく豊の秋 東京都 辰巳 蒼湖

《稲畑汀子賞》

七草が野に整へば来る忌日 東京都 小島由美子

《拓殖大学長賞》

夕焼を追ひかけて追ひかけて海 大阪府 多田羅紀子

《洲本市長賞》

一島に三市三山風薫る 兵庫県 柏原 憲治

地球病むときほど眩し麦の秋

みなね かな
三根 香南

洲本市在住

「若葉」「岬」同人



葦采のよろこび青女来るたびに

いなやま たたとし
稲山 忠利

南あわじ市在住

「南淡七曜俳句会」代表



小春日や天界近き丘に立ち

きのした けいこ
木下 圭子

洲本市在住

「ホトトギス」同人



《南あわじ市長賞》

風吹けば風も彩り大花野 岡山県 池田 純子

《淡路市長賞》

透明な水の鼓動や音涼し 京都府 細田佐代子

《兵庫県淡路県民局長賞》

青嵐忌どの道ゆくも萩の風 兵庫県 菅 礼子

《淡路島観光協会長賞》

秋めくやこんな空が深いとは 愛知県 斉藤 始子

《淡路島くにうみ協会理事長賞》

稲架かけてすなはち風の通り道 神奈川県 三玉 一郎

入賞作【学生の部】稲畑汀子選

《永田青嵐大賞》

毛虫退治みんな毛虫に見えてくる 徳島県 阿地しずく

〔阿南市立阿南第一中学校〕

《拓殖大学長賞》

夏休み今年帰れぬ祖父の家 兵庫県 吉田 彩乃

〔蒼開高校〕

《金賞》

三人目まだわれませんすいかわり 富山県 田中 優真

〔高岡市立伏木小学校〕

《銀賞》

寝冷えして大切な日がだいなしだ 兵庫県 木下 結奈

〔志筑小学校〕

《銀賞》

少しだけうすくかがやく虹見えた 高知県 市原 成悟

〔土佐市立高岡第一小学校〕

佳作【一般の部】稲畑汀子選

水仙の風の行方の海光る 高知県 安岡みさき

秋晴に木々背伸びして天突けり 大阪府 大阪のアン

海がまづ明けて来にけり冬の朝 東京都 片桐 啓之

登り来て洲本城址に聞く初音 兵庫県 安井 博子

桐の花もう嫁入りの娘のおらず 秋田県 小林しゆん

雨やみて星に近づく今年竹 兵庫県 中井明日美

風もまた島の風韻野水仙 大阪府 石橋 玲子

米寿なほプールに通ひ二十年 滋賀県 寺村 房子

露けしや島の神話を知るほどに 兵庫県 本郷 桂子

露草に譲らぬ今朝の空の青 島根県 細田 洋子

《銅賞》

その上は何かありそう雲のみね 東京都 前原 理奈

〔江東区立第二亀戸小学校〕

《銅賞》

おにちゃんあそんでくれる夏休み 岐阜県 今村 柚希

〔揖斐川町立大和小学校〕

《銅賞》

いつの間に消えてしまった蟬の声 兵庫県 村上 宝

〔洲本高校〕

《銅賞》

滝落ちる音森林に鳴り響く 東京都 井上あけみ

〔荒川区立第四中学校〕

《銅賞》

いきいきと山に響くは蟬の声 兵庫県 藪 雅人

〔洲本高校〕

これほどに晴れて露けき城址径 石川県 辰巳 葉流

露の世の島に生まれて島に老ゆ 兵庫県 片山 紀子

椅子ならべ妻を誘ふ良夜かな 茨城県 岩岡 靖夫

須磨明石淡路をつなぎ鯛雲 大阪府 徳澤 彰子

楽しくて亦も迷つて花野道 香川県 原 連

ふと見付け次々見つけ返り花 長崎県 辻 美彌子

ふるさとへ海峡渡る月今宵 兵庫県 森 敦子

花野行く引き返さねば戻らねば 兵庫県 田中 由子

登高や海はればれと光りをり 千葉県 岡田 春人

おのころの霞みて記紀の島となる 京都府 藤堂くにを

佳作【学生の部】稲畑汀子選

水の音心いやされ初夏の風 兵庫県 魚崎友里絵 〔洲本高校〕
 縁側の風鈴ゆれて風が鳴る 兵庫県 服部 一葵 〔洲本高校〕
 ひらひらと散りゆく桜名ごり惜し 兵庫県 齋藤 凜 〔洲本高校〕
 また一人ひぐらしの鳴く川沿いを 兵庫県 出口 仁哉 〔洲本高校〕
 冬の朝どんな朝より美しき 兵庫県 森 研二 〔洲本高校〕
 金木犀風に運ばれ香りだす 兵庫県 木田 彩音 〔洲本高校〕
 夕立ちが人をぬらして晴れていく 兵庫県 高橋 星太 〔蒼開高校〕
 麦わら帽風にふかれて空を飛ぶ 兵庫県 青石雪月花 〔沼島中学校〕
 しゃぼん玉青空高く昼の星 埼玉県 池部 美月 〔桶川市立桶川東中学校〕
 夏景色ふいに感じる潮の風 埼玉県 奥山 博貴 〔桶川市立桶川東中学校〕

入選作【一般の部】高田菲路選

《優秀句》
 喪に籠る姉を花火へ誘ひ出す 佐賀県 上野 酔歩
 《優秀句》
 青き目の噺家もゐて寄席涼し 愛知県 斉藤 浩美
 田の神にすなる一札水落す 兵庫県 小谷さよ子
 新涼や女鳶師が足場組む 山梨県 野中 定代 〔桶川市立桶川東中学校〕
 田に人のゐる安らぎや原爆忌 福岡県 中原南大喜
 風もまた島の風韻野水仙 大阪府 石橋 玲子
 風薫る日曜だけのカフェテラス 福岡県 川口 茂則
 野仏の欠けし茶碗や赤のまま 広島県 久保 紘子
 声消えて久し西日の廃校舎 愛知県 新美 欽哉
 鞆やゆれて「生きる」の一場面 愛知県 高間登美子

こちよく風鈴ならず夜の風 埼玉県 小野 賢太 〔桶川市立桶川東中学校〕
 星のよう落ちゆく滝の水しぶき 東京都 今村 心道 〔荒川区立第四中学校〕
 シュート打ち秋風にのりゴールへと 静岡県 本多 匠 〔静岡市立賤機中学校〕
 風吹いてゆれる青田と空の色 兵庫県 藪内 理紗 〔蒼開中学校〕
 深夜まできれいな月にみとれたよ 兵庫県 花畑 俊弥 〔志筑小学校〕
 山や町緑だらけの色になる 高知県 井上 葵生 〔土佐市立高岡第一小学校〕
 せみさんは命気にせずなっている 兵庫県 亀井 一稀 〔辰美小学校〕
 おばあちゃんつくったすいか大きいな 東京都 横川 志帆 〔江東区立平久小学校〕
 てんとう虫てんてんもようおもしろい 東京都 のぐちめい 〔葛飾区立こすげ小学校〕
 紅葉で一面そまり赤い町 大阪府 中川 舞乙 〔大阪市立大東小学校〕

入選作【一般の部】正井良徳選

《優秀句》
 晩年の心野に置き露に置き 福岡県 中原南大喜
 《優秀句》
 海鳴や吊玉葱の音符めく 高知県 安岡みさき
 夏雲や同じところで止むピアノ 兵庫県 泉 栄子
 妣のやうな母になりたく種を採る 兵庫県 林 芳子
 鎌の柄に母の名のあり草の花 茨城県 岩岡 正子
 早笛に負けじと猛る祭り獅子 兵庫県 小谷さよこ
 泣きながら逃げながら兎は豆打てり 奈良県 中 博司
 秋の空人は太古に鳥ならむ 茨城県 舘 健一郎
 木下閨洞に魍魅の棲みし跡 長崎県 永川 庸子
 新涼や靴にするりと足の添ひ 兵庫県 村井みさを

入選作【一般の部】三根香南選

《優秀句》

日めくりの一枚ほどの今朝の秋 兵庫県 片岡 橙更

《優秀句》

歳時記は未知への扉 獺祭忌 兵庫県 三原 聡子

妹に下宿をゆずり卒業す 徳島県 岡本 淳子

ハーモニカ海へ向け吹く十三夜 兵庫県 木内美恵子

風もまた島の風韻野水仙 大阪府 石橋 玲子

転舵して水上バスは花に添ひ 大阪府 長尾 常盤

木戸を入る仏の遣いこかまきり 大阪府 岡田東紀子

手をあはす地蔵に風のねこじやらし 大阪府 今村久美子

望月や嫁ぎる娘に良き報せ 兵庫県 平川紅仁子

父の日やどの子も継がぬ大座敷 新潟県 美濃部紘三

入選作【一般の部】木下圭子選

《優秀句》

まつさらな育児日記や立葵 埼玉県 内野 義悠

《優秀句》

雨に倦み雨に太れる茗荷の子 兵庫県 富家 新子

朝市の野太き声や寒卵 香川県 岩田 賀代

風吹けば風も彩り大花野 岡山県 池田 純子

間引菜の一盛として売られゆき 兵庫県 坂口 蜂子

鎌の柄に母の名のあり草の花 茨城県 岩岡 正子

帰省子に汗のほひの残りけり 愛知県 和田 陽子

日輪へ肩怒らせて蜻干さる 兵庫県 寅屋 照夫

大漁旗応援旗とし運動会 愛知県 斉藤 浩美

天高し子を大空へ抱き上ぐる 長崎県 伊藤ひとみ

入選作【一般の部】稲山忠利選

《優秀句》

露草に譲らぬ今朝の空の青 島根県 細田 洋子

《優秀句》

待春やつかまり立ちの手にちから 愛知県 水野 大雅

雲の峰高田屋嘉兵衛物語 長崎県 柴田ちぐさ

まつさらな育児日記や立葵 埼玉県 内野 義悠

石垣に上げ潮の来る門火かな 兵庫県 江見 巖

今もなほ八角井戸の水澄めり 兵庫県 細田三代子

日輪へ肩怒らせて蜻干さる 兵庫県 寅屋 照夫

新刊書葉はらりと目借時 新潟県 皆川 朝子

遠景に海の光れる花野かな 愛知県 馬場ひろみ

ひと紐の提灯並ぶ地蔵盆 岐阜県 渡邊 俊峰

入選作【学生の部】高田菲路選

《優秀句》

かたつむり重いリュックをせおつてる 高知県 矢野 英幸

《優秀句》

ジロジロと何探してる扇風機 東京都 田原 春樹

窓より逃がすあお向けのこがね虫 香川県 小林 俊輝

テレビうらほこりの世界大そうじ 青森県 沖田 椿姫

熱帯夜姉に教わる三角比 兵庫県 笹本 広大

捨猫にこころ拾われ冬薔薇 茨城県 高橋 勇氣

啄木鳥に心の奥をつつかれる 兵庫県 藤本 弥夕

星空に夢を添えたり遠花火 茨城県 野村 亮太

かさでバリア水でつぼうの倍がえし 青森県 馬場 陽大

唐黍がごちそうだったと笑う祖母 宮城県 松浦 由倭

入選作【学生の部】正井良徳選

《優秀句》

鉛筆にひびく打ち上げ花火かな 愛知県 小栗 卓文

〔名古屋市立鳴海中学校〕

《優秀句》

スタートのピストルの音すすきゆれ 静岡県 片山 茜

〔静岡市立賤機中学校〕

ヒーローの変身を解き冷奴 愛媛県 野村 隆志

〔愛媛県立松山東高校〕

ちりちりち火むらはなむら百日紅 茨城県 田中 隆晟

〔茨城県立結城第二高校〕

空蟬や余白の多い日記帳 茨城県 辻 優香

〔茨城県立結城第二高校〕

夕立や軒下で嗅ぐアスファルト 山口県 熊谷 唯

〔柳井市立柳井西中学校〕

その上は何かありそう雲のみね 東京都 前原 理奈

〔江東区立第二亀戸小学校〕

更衣なつかしの服こんにちは 兵庫県 木谷 真麻

〔志筑小学校〕

雨あがり草のにおいとセミのこえ 東京都 梅崎 結音

〔江東区立平久小学校〕

月の影毎日変わる塾帰り 静岡県 青山 奈央

〔静岡市立賤機中学校〕

入選作【学生の部】稲山忠利選

《優秀句》

鉛筆にひびく打ち上げ花火かな 愛知県 小栗 卓文

〔名古屋市立鳴海中学校〕

《優秀句》

啄木鳥に心の奥をつつかれる 兵庫県 藤本 弥夕

〔蒼開中学校〕

金魚すくい破れてもなお追いにけり 兵庫県 正木 亜侑

〔洲本高校〕

冬茜君と歩いた歩道橋 兵庫県 笹本 広大

〔洲本高校〕

卒業の写真にうつるマスク顔 岐阜県 若原 悠真

〔揖斐川町立大和小学校〕

せみのこえきいてつくったひみつきち 東京都 土屋 颯良

〔江東区立平久小学校〕

バレンタイン心の中にチョコ一つ 東京都 須藤 悠太

〔江東区立深川第七中学校〕

せんぷうきこつちをみてはめをそらす 東京都 井出 夏葵

〔多摩市立多摩第一小学校〕

みの虫の着ているみのを着てみたい 岐阜県 岡部 あん

〔大垣市立墨保小学校〕

青空をぐんぐん泳ぐ鱗雲 兵庫県 中塚 心哉

〔志筑小学校〕

入選作【学生の部】三根香南選

《優秀句》

卒業日思い出背負ったランドセル 埼玉県 石田 晴香

〔桶川市立桶川東中学校〕

《優秀句》

熱帯夜姉に教わる三角比 兵庫県 笹本 広大

〔洲本高校〕

青がえる草から出てきこんにちは 東京都 中村 水優

〔北区立西浮間小学校〕

唐黍がごちそうだったと笑う祖母 宮城県 松浦 由倭

〔仙台市立郡山中学校〕

直哉読む夜の教室銀木犀 茨城県 山田 叶夢

〔茨城県立結城第二高校〕

もみじはねとてもかなしく落ちてゆく 大阪府 東埜 優夏

〔大阪市立大東小学校〕

空蟬や余白の多い日記帳 茨城県 辻 優香

〔茨城県立結城第二高校〕

どんぐりはぼうしといっしょに落ちてくる 埼玉県 小林 瑠奈

〔本庄市立藤田小学校〕

ひまわりと勝負し負けた背比べ 高知県 前川 竜汰

〔土佐市立高岡第一小学校〕

離れても故郷を思う盆休み 兵庫県 廣田和花奈

〔洲本高校〕

入選作【学生の部】木下圭子選

《優秀句》

いつだって見守っている桜の木 兵庫県 黒田あゆ美

〔洲本高校〕

《優秀句》

夏休み今年帰れぬ祖父の家 兵庫県 吉田 彩乃

〔蒼開高校〕

岩清水暑さも流す水の音 山口県 高田 悠彩

〔柳井市立柳井西中学校〕

雨の日の蟹と一緒にの帰り道 山口県 城野 音羽

〔柳井市立柳井西中学校〕

列車の外手を振る祖母と麦藁帽 埼玉県 本田理沙子

〔桶川市立桶川東中学校〕

夏休み短い鉛筆増えていく 静岡県 望月あかり

〔静岡市立賤機中学校〕

兄弟で線香花火風防ぐ 福岡県 山本龍之介

〔大牟田市立田隈中学校〕

きょうしつでいっしょにべんきょうおにやんま 青森県 ささきゆうた

〔南部町立向小学校〕

はじめての背番号十夏の土 青森県 工藤 崇太

〔南部町立向小学校〕

宅急便北風つれて配達だ 高知県 横飛 楓

〔土佐市立高岡第一小学校〕

準入选作

〔各島内選者の入選作の次点として選句された作品を〕
「準入选作」として紹介しています

【一般の部】

《高田菲路選》

岩清水時を垂らしてゐたりけり 群馬県 佐藤 公平
取りやめし祭なれども笛の音 大阪府 奥村つよし
安泰に今日をたためり合歡の花 愛知県 山口 純子
梅雨籠りコロナ籠りの無聊かな 長崎県 西 史紀
耳もとで振つてみたくて小判草 兵庫県 岸 慶子

《正井良徳選》

己が身をひとつに畳み落つ木槿 大阪府 狩野のり子
鱗雲気づかぬほどに流れをり 兵庫県 中村 純代
残り鴨昨日の水を泳ぎけり 茨城県 菅谷 勝彦
天高し子を大空へ抱き上ぐる 長崎県 伊藤ひとみ
播磨野に溜池の数月の数 兵庫県 岡田 佳子

《三根香南選》

鎌の柄に母の名のあり草の花 茨城県 岩岡 正子
被災地の土で巣作り初燕 新潟県 皆川 朝子

【学生の部】

《高田菲路選》

虹立つや私の好きな筑波山 茨城県 田崎 菜緒
かわいさが冬とはちがう春のねこ 高知県 鈴木 彩菜
竹でする流しそうめん速すぎる 兵庫県 西殿 朋希
夏のおせがなばったあせとまたちがう 富山県 山 桜香
水田に映る夕日と鷺の影 兵庫県 吉田 彩乃

《正井良徳選》

真っ黒な夜空にもどり花火すむ 兵庫県 庄野 硫稀
長話アイスクリームぼとり落ち 兵庫県 片岡 玲菜
夕立に洗濯物と母叫ぶ 山口県 村川 未羽
夏のくもりゆうの形ににっていたよ 東京都 横塚 風
水仙は崖一面のラッパ隊 兵庫県 片岡 玲菜

《三根香南選》

タンポポの種はどこまで旅するの 東京都 渡邊 竣太
見つけたよ風の足あといねのなみ 埼玉県 中塚 晴賀

母のこと里のことなど小夜時雨 愛媛県 大賀 康男
草笛を吹けばいつしか少女の瞳 大阪府 杉山千恵子
玉葱の竿撓ふまで吊しけり 兵庫県 中野はつえ

《稲山忠利選》

空の青こらへきれずに木の葉散る 岡山県 伴 明子
先生の脱線話癩祭忌 茨城県 中原 壱朋
天上へひらく泰山木の花 滋賀県 東野真知子
一粒を噛みて稲刈る日の決まる 兵庫県 武本 敬子
忘るるといふ妙薬や春を待つ 香川県 三宅久美子

《木下圭子選》

休みなく蟻の行進過疎の村 神奈川県 井川 耕
突然の島の停電星月夜 福島県 斎藤 正道
ほうたるの沈む重さのある光 東京都 福島テツ子
三代へ朝顔の種残したり 千葉県 沼田 陽子
欄干に残るぬくもり冬隣 千葉県 春山 武雄

スズムシは小さな小さな音楽家 埼玉県 山屋夏音
いつかには歩いてみたい虹の橋 兵庫県 青石雪月花
こう園へ行くおそろいの夏ぼうし 富山県 小澤 咲太

《稲山忠利選》

自販機に虫の集まる夏の宵 兵庫県 紺社 雄琉
雨宿りする陸橋のねこじやらし 山口県 野坂 元希
外練の努力を示す日焼かな 佐賀県 西山 晃葉
熱帯夜姉に教わる三角比 兵庫県 笹本 広大
妹の手と紅葉とを比べけり 兵庫県 丸田 姫花

《木下圭子選》

ひまわりにいつとどくかなせいくらべ 岐阜県 渡辺 詩野
ふうりんが夏のスタート知らせるよ 兵庫県 原 莉音
せんぷうきみんなあつまる昼さがり 東京都 杉田 琉奈
木の上にくりがやすやねむつてる 埼玉県 荻野 真幸
かたつむり重いリュックをせおつてる 高知県 矢野 英幸

俳句入門講座（令和2年度）

本講座は、俳句初心者に俳句の楽しみを広めるため、俳句の基礎知識（定型・季題・季語・切れ、かなづかい等）や俳句の歴史、俳句の作り方などを楽しんでいただくことを目的に実施しております。（今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止）

俳句出前講座（令和2年度）

本講座は、島内選者が講師となり、講座を希望する島内の高等学校・中学校・小学校に出向き、俳句の基礎や作り方の授業を通じて、子供達に俳句への理解を深めていただくことを目的に開催しており、今年度は一校で実施しました。

- ・実施校 淡路市立志筑小学校6年生（67名）
- ・実施日 令和2年9月18日（金）
- ・講師 正井 良徳氏



〈講義の様子〉



〈講師：正井良徳氏〉

後記

第十二回永田青嵐顕彰全国俳句大会

運営委員会 副委員長 正井 良徳

令和二年は、新型コロナウイルスが我が国のみならず世界に蔓延し、コロナに明けコロナに暮れた一年でした。感染拡大防止のため、残念なことに数多くのイベントや会合が中止または延期を余儀なくされ、文化活動もその例外ではありませんでした。緊急事態宣言解除後、三密を避け、手指・用具等の消毒、マスクの着用が日常を取り戻す風習として定着してきました。

こうした中で、「第十二回永田青嵐顕彰全国俳句大会」が実施できたことは、まことに喜ばしいことであります。本大会に過去最多となる七千五百九十四句をお寄せいただいた、一般千十一名、学生三千四百三十七名の方々に心から感謝申し上げます。

今回も稲畑汀子先生はじめ島内選者の先生方には、ご多忙の中を押し選句の労をお取りくださり誠にありがとうございました。

また、本大会の企画運営にご尽力くださった運営委員の方々、事務局としてお世話いただいた淡路島くうみ協会さまに厚くお礼申し上げます。

この入選句集が、淡路島が生んだ偉人永田秀次郎顕彰のよすがとなり、関係各位の誇りとなれば幸甚であります。

第12回淡路島吟行バスツアー

淡路島の観光地等を巡り俳句を詠む淡路島吟行バスツアーを毎回実施しております。今年度は吟行後、夢舞台国際会議場で本大会の外部講師である水田むつみ先生（「田鶴」主宰）と島内選者を囲んで句会を行いました。

- ・実施日 令和2年11月22日（日）
- ・行程 あわじ花さじき〜絵島〜夢舞台国際会議場
- ・参加者 27名



〈あわじ花さじき〉



〈絵島〉



〈句会〉



〈句会〉

第十二回永田青嵐顕彰全国俳句大会

投句者及び投句数

【全 体】	投句者	四千四百四十八名
	投句数	七千五百九十四句
【一般の部】	投句者	千十一名
	投句数	二千五句
【学生の部】	投句者	三千四百三十七名
	投句数	五千五百八十九句

運営委員会委員

・大会名誉会長	永田 秀一
・大会 会長	石村 健
・顧問	高田 菲路
・運営委員会委員長	角本 雅宣
・運営委員会副委員長	正井 良徳、三根 香南
・運営委員	稲山 忠利、木下 圭子、高野 さち、栗井 光代、塩谷 春美、福浦 泰穂、吉野 康之、毛笠 錦哉、勝見 哲、真嶋 加由里